教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 英語グローバル学科　　資格： 教授　　氏名： 米田　みたか

研究分野	研究内容のキーワード
英語教育	英語教授法、オーセンティック・マテリアル、持続可能な学び、自律した学習者
学位	**最終学歴**
博士（Doctor of Education）修士（MA in Humanities）	The Graduate School of Education, The University of Western Australia 西オーストラリア大学大学院教育学専攻博士課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.バイリンガル・ディスカッション	2020年2月6日2月7日	シンガポール国立大学の日本語学習者と日本の文化や社会問題についてディスカッションを実施した。
2.スカイプを使った日英バイリンガルセッション	2019年2月7日	シンガポール国立大学の日本語学習者とスカイプを使用して英語と日本語によるディスカッションを実施した。
3.国際ボランティアグループ、ＭＥＣの担当して、スカイプを使った交流など指導	2013年4月～2015年3月	シンガポール、スウェーデンの学生とスカイプを使ってバイリンガル・ディスカッション実施。外国人の観光案内や留学生との交流会など英語を使う機会を設定した。
4.学習者の社会への関わりの意識を高める授業	2012年4月～現在	学習者の国内外の出来事への関心を高め、社会との関わりへの意識を高めるために、そのときどきに発生した時事など生の英語素材(Authentic Materials)を教材と導入している。特にビジネス系・産業界のニュースやビジネスリーダーのインタビューを取り上げ、高学年の学習者が就職活動を行う際に企業への関心や知識を高めることを視野に入れた授業を心がけている。
5.受講生参加型の授業など多用な授業方法を採用	2012年4月～現在	学習者が積極的に授業に参加する受講生参加型や双方向授業、グループ・リサーチ＆プレゼンテーションの形態をとった学習者中心の授業を実施している。
6.英文学科ビジネス・コミュニケーション系のコーディネータとしてカリキュラム、シラバスのデザイン	2012年4月～現在	ビジネスの専門分野の英語をESP（English for Specific Purposes「特定の目的のための英語」）や内容を重視したアプローチ（ＣＬＩＬ）の視点を取り入れた授業方法を考案・作成している。
7.英語による授業展開	2012年4月～2014年3月	ビジネスコミュニケーション基礎、ホスピタリティ英語科目でＳクラス（ＡＣＥ）を担当し英語で授業を展開した。
8.学習者の社会への関わりの意識を高める授業	2012年～現在	学習者の国内外の出来事への関心を高め、社会との関わりへの意識を高めるため、その時々に発生した時事など生の英語素材を教材として使用する授業を展開している。
9.E-learningを使った自習コースの作成	2009年4月～2012年3月	Moodle（E-learningのプラットフォーム)を使った英語学習の自習コースの作成。
10.英語学習相談室の運営（お茶の水女子大学外国語教育センター）	2009年4月～2012年3月	英語学習への動機づけとその維持、自律的学習者の育成を目的にした英語学習相談室を開設し、学生の英語学習についての相談を行った。教員と学習者が相談した上で、個々の目的とレベルにあった学習スケジュールを作成し、継続的な英語学習をサポートした。
2 作成した教科書、教材		
1.Did You Catch It?	2012年3月	英語の長文を聞いて、内容が理解できるリスニング力を養成することを目標にし、通訳者養成訓練法として使用されているリテンション、リプロダクション、ディクテーションの練習を導入。ペアワーク等の協同学習を取り入れ、学習者参加型の授業が行えるよう作成した。第一著者（共著者： Chris Valvona）
2.Working Up to Paragraph Writing	2011年3月	英語の文章の構造を学び、意味を明確に伝える文章が書けることを目標に、学生同士でブレーンストーミングや話し合いでアイデアを出し合ってから、書く段階に入るという手法をとっている。第一著者　　（共著

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
		者： Robert Lamitie他)
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.社内翻訳	1997年4月～1998年6月	企業でビジネス文書、技術レポート、マニュアル等の日英、英日翻訳。海外の技術開発部門との英語によるコレスポンデンス担当。
2.海外駐在員のための英語研修	1996年4月～1997年3月	企業で英語圏の国へ駐在が決まっている社員の駐在前教育の英語教育を担当。
3.実務翻訳	1992年1月～1997年3月	テレビ局のサイエンス番組の資料の英日翻訳、ケーブルテレビのナレーションなどの日英翻訳、その他ビジネス文書、技術文書等の日英・英日翻訳
4 その他		
1.高大接続事業・入学前講義	2020年2月12日	高大連携事業・入学前講義として武庫学女子大学附属高校3年生に対して、リスニングに関する講義と演習を行った。
2.附属高等学校対象大学講座	2019年2月5日	高大連携事業として武庫川女子大学附属高等学校生徒を対象にシンガポールの英語の歴史的・社会的背景、現在の使用状況を中心に講義を行った。
3.附属高等学校SE対象大学講座	2016年11月4日　11月11日	高大連携事業として武庫川女子大学附属高等学校3年生SEコース生徒対象に英語の多様性に関する講義を行った。
4.英語学習支援	2016年4月～現在	英語学習相談室の相談員として希望者を対象とした英語学習の支援を行っている。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.通訳技能検定２級 2.工業英語能力検定（テクニカルライティング）２級 3.実用英語技能検定１級 4.教員免許　中学、高校（英語）		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.Did You Catch It?	共	2012年3月	Cengage Learning	米田みたか、Christopher Valvona. 長文を聴いて、内容理解ができるリスニング力の養成を目標とした教材。
2.Working Up to Paragraph Writing	共	2011年3月	朝日出版	米田みたか　Robert Lamitie 他 英語の文章の構造を学び、意味を明確に伝える文章が書けることを目標に、学生同士でアイデアを出し合ってから、書く段階に入るという手法をとっている.
3.English for Business Purposes: Japanese Professionals in Singapore	単	2010年7月	VDM Publishing	シンガポール在住日本人駐在員に仕事で使用する英語について日本人と日本人以外のシンガポール在住者に面接を実施し、その自己認識をもとに、ビジネス現場に求められる英語について分析・考察を行った。（博士論文を加筆・修正）
2 学位論文				
1.English for Business Purposes: Japanese Professionals in Singapore	単	2007年3月	The University of Western Australia 博士論文	シンガポール在住の日本人駐在員に仕事で使用する英語について日本人と非日本人に面接を実施した。その自己認識をもとに、ビジネス現場に求められる英語について分析・考察を行った。
2.The Idea of Persuasion in	単	2001年3月	The University of Chicago	日本人が論理的な文章を書く場合と読む場合と好ましいと感じる構成方法についての分析、検証を行った。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
Japanese Business Writing: New Analytical Methods			修士論文	
3 学術論文				
1.Authentic Materials: Definitions Perception, and Usage by ELT Practitioners	共	2021年3月	学校教育センター紀要 第6号P. 130-145 武庫川女子大学学校教育センター	オーセンティック・マテリアルの定義や授業で使用することの有効性は、研究者の間で常に合意があるわけではない。そこで、日本、アメリカ、シンガポールで英語教育に携わっている教員に量的調査と質的調査を実施し、授業でのオーセンティック・マテリアルの使用についての考えや何をオーセンティック・マテリアルだとみなしているかについて、具体的な例を挙げて検証を行った。調査対象であった教員のオーセンティック・マテリアルの捉え方は、研究者の間で考えられているよりもさらに広義であることが考察された。（共著者: Christopher Valvona）
2.Authentic Materials Selected for the Future Needs of Students: Difficulty, Interest, and Autonomy as Perceived by Learners	共	2019年12月	Studies in English Teaching & Learning in East Asia 第7号, P.41-56 JACET東アジア英語教育研究会	EFLの授業におけるオーセンティック・マテリアルの使用の有用性については多くの議論がある。本研究では、使用のメリットとデメリットを学習者の視点から検証を行った。難しいことがデメリットとして指摘されているが、学習者が興味を持つトピックの選択や十分なスキャフォールディングを行うことによって、学習者のモチベーションは上がり、その後の学習への持続も期待できることが考察された。（共著者: Christopher Valvona）
3.Authentic Materials in Language Learning: Definitions, Advantages and Disadvantages, and Future Directions of Study	共	2019年3月	沖縄キリスト教学院大学論集第16号 P. 1-10	オーセンティック・マテリアルの定義、そして、どのようなマテリアルをオーセンティックと考えるかという点においての見解は必ずしも一致していない。本稿ではまず、オーセンティック・マテリアルの定義に関する考察を包括的にレビューしていく。そのうえで、授業でオーセンティック・マテリアルを使用することに伴う潜在的な長所と短所についてこれまで提唱されてきた主張を示し、さらに、従来の言語教育の目的で執筆された教材にどの程度取って代わるのがよいのかという議論を紹介する。最後に、授業でのオーセンティック・マテリアルの効果的な利用に関して一層の理解を深めるための提案を示唆していく。（共著者: Christopher Valvona）
4.Doing Business in the Global Village : Japanese Professionals on EL Needs in Singapore （査読有）	単	2015年12月	Education, Research and Perspectives, Vol. 42. P. 166-206 Marnie O' Neill and Anne Chapman 編著 The University of Western Australia.	グローバル･ビジネスにおける英語の重要性が強調される中、海外で活躍する日本人の英語教育に関する省察を分析した。特に教授法に焦点をあてた考察である。
5.Raising Learners' Global Awareness through the Use of Authentic Materials （査読有）	単	2015年3月	Mukogawa Literary Review, No. 52, pp. 33-45. 武庫川女子大学英文学会	オーセンティック・マテリアルを使用して行った授業の事例報告である。ニュース、新聞、雑誌、インターネットなどを使って、そのときどきに話題になった企業の題材やビジネスリーダーのスピーチやインタビューを取り上げた。本稿では、教材の選び方、それをどのように授業に取り入れ、進めていくかを詳しく記述した。また、学習者の授業後のフィードバックも紹介している。
6.Approaching Course Plan Design via the Language Curriculum Design Model （査読有）	単	2014年3月	Mukogawa Literary Review No. 51, pp. 21-32. 武庫川女子大学英文学会	Paul NationとJohn Macalisterが提唱するランゲージ・カリキュラム・デザイン・モデルを使って実際の授業のコースプランを考案した。受講者の学習目標を達成するために、モデル内の要素をバランスよく取り入れることが求められる。教員が授業内で導入するタスク、アクティビティを提案した。
7.Designing Assessment Tools: The Principles of	単	2013年3月	武庫川女子大学紀要（人文・社会科学）60号 pp. 41-	言語アセスメントの5原則(実用性、信頼性、妥当性、信憑性、波及効果)（Brown & Abeywickrama, 2010）を授業の評価に応用し、具体的な評価方法を論じた。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Language Assessment （査読有）			49.	
8. Integrating Reading and Writing Tasks in an EFL Class: A Case Study （査読有）	単	2011年3月	お茶の水女子大学人文科学研究第７巻、 pp. 153-163.	リーディングとライティングを統合させることによって期待される相乗効果と協同学習を取り入れることによってインターラクティブにライティングを学ぶという2点に焦点をあてた授業の考察を行った。
9. 学習者中心の文法指導―グループワークの試み （査読有）	共	2010年3月	明治学院大学教養教育センター「カルチュール」第４巻、 pp. 237-248.	文法の授業を選択した大学１年生61名を対象に、学習者中心の授業を展開するために、グループワークを用いた。本稿は、どのようにグループワークを取り入れたかという報告と授業終了後に行ったアンケートの結果を紹介し、受講者のTOEFLスコアの変化も視野にいれ、グループワークを導入した授業の効果についての検証と考察を行った。（共著者：小泉有加）
10. 在シンガポール日本人子女に対する小中高の英語教育について（査読有）	単	2009年12月	JACET東アジア英語教育研究会「研究論集」第３号、pp. 63-75.	シンガポールには、日本人学校小学部・中学部、早稲田渋谷シンガポール高校があり、国際性を備えた日本人子女を育成するための英語の教育活動が行われている。それぞれの学校の英語授業の見学と英語担当教員への聞き取り調査を行った。本稿はその報告である。
11. ビジネスにおける英語の使用状況についての考察－シンガポール在住日本人の面接調査の結果から （査読有）	単	2009年3月	明治学院大学教養教育センター「カルチュール」第３巻、 pp. 199-208.	シンガポール在住の日本人18名に対して行なった、職場における英語の使用状況に関する面接に基づき、日本人がどういう状況でどの程度英語を使用しているのかという現状を明らかにした。
12. English Language Strengths and Weaknesses of Japanese Expatriate Workers （査読有）	単	2008年8月	University Putra Malaysia Press My Language Your Language, Unit 9 Mohd Azidan Abdul Jabar 他編著	日本人ビジネスパーソン18名に、英語力の長所・短所の自己評価をしてもらい、その聞き取り調査を行った結果を分析・考察した。（Malaysia International Conference of Foreign Languages Proceedings 2007を加筆・修正）
13. The Perception of Japanese People’s English （査読有）	単	2008年3月	明治学院大学教養教育センター「カルチュール」第２巻、 pp. 21-34.	仕事で日本人と関係のある英語話者に、日本人の英語について個人インタビューとグループ・ディスカッションを行った結果を分析した。
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
1. 英語はどのように使われているかー シンガポールの事例	単	2013年6月22日	武庫川女子大学春季英文学会講演会 武庫川女子大学、兵庫	東南アジアの経済・貿易の中心であるシンガポールでは、英語が公用語のひとつとして採用されている。本講演では、シンガポールの言語政策、シンガポール人にとっての英語、そして、そこで働く日本人駐在員にとっての英語について紹介した。
2. グループワークを用いた授業―英語特別研究の授業報告を中心に	共	2010年3月26日	明治学院大学教養教育センター英語教員ワークショップ 明治学院大学、東京	文法の復習、強化を目標にした授業で実施したグループワークの具体的な方法を紹介した。学習者が一方的に教員の解説を聞くという受け身の姿勢で授業に臨むのではなく、ひとりひとりの学習意欲を高め、授業に参加をしているという自覚を持ってもらうための方法や工夫を提示した。
２．学会発表				
1. Implications for sustainable learning: Perspectives from Japanese and Singaporean learners	共	2024年2月21日	Asian Conference for Innovation in Education 2024 タイ	この研究は、言語学習を卒業後も継続させるために、英語と日本語の語学学習経験者の見解を通じて、自律的かつ持続可能な学習者を育成するための教育方法を考察した。 共同発表者：Christopher Valvona

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
2.Global Workforce: Perspectives of Japanese and Singaporean Businesspeople	共	2023年5月13日	JALT Pan SIG Conference 京都産業大学	日本とシンガポールで働いているビジネスパーソンに対して、自身の職業経験に基づき、国際的な舞台で活躍するために求められる能力についての見解を調査した。その結果を発表した。 共同発表者：Christopher Valvona
3.Cultivating Global Human Resources in Japan: Professional Reflections and Suggestions	単	2023年3月27日	The 9th Asian Conference on Education & International Development (IAFOR ACEID2023)　東京	社会で活躍している英語専攻の卒業生を対象に、大学での学びに関して実施した遡及調査の結果を報告した。
4.Authentic materials fostering lifelong learners ready for the work environment	共	2023年3月24日	TESOL 2023 International Convention アメリカ、ポートランド	グローバルな職場環境に適した語学力を持つ生涯学習者を育成するため、オーセンティック・マテリアルの有効性に関する研究を発表した。 共同発表者：Christopher Valvona
5.Investigating Methods and Materials that Foster Autonomous, Lifelong Learners	共	2022年3月15日	56th RELC International Conference 2022 SEAMEO Regional Language Centre (Southeast Asian Ministries of Education Organization Regional Language Centre) シンガポール	自立した生涯学習者を育成するための方法と教材を調査するため、大学時代に「生の英語」を使った授業を受講した学習者を対象に遡及的調査を行った結果を発表した。 共同発表者：Christopher Valvona
6.Authentic Materials in the Language Classroom :Teacher Perspectives on Use, Advantages, and Disadvantages	共	2020年1月11日	Hawaii International Conference on Arts & Humanities アメリカ、ハワイ	日本、シンガポール、アメリカの3か国の大学から中学まで教育段階の異なる教員に、授業でオーセンティック・マテリアルを使用することの意見や見解、使用状況をアンケートと個人面接で聞き取りを行った。その結果を発表した。 共同発表者：Christopher Valvona
7.Authentic Materialsを使った授業の考察：学習者への調査結果から	単	2019年4月20日	JACET 第196回東アジア英語教育研究会 福岡　西南学院大学	オーセンティックな英語について学習者を対象に行った質問紙（オンライン）調査と面接を通して明らかになった授業後の学習者の学習活動や影響など自立学習者へとつなげる可能性と要因についての考察を発表した。
8.Using Student Interviews to Evaluate Usage of Authentic Materials in the EFL Classroom	共	2018年12月7日	The Eighth CLS International Conference ClaSIC シンガポール国立大学　シンガポール	生の英語を使用した授業について受講生に個人インタビューを実施した。テキストマイニング分析を行い、学習者の考えるオーセンティックの定義、その長所、短所についての検証結果を発表した。 共同発表者：Christopher Valvona
9.Learners' Perspectives on Authentic Materials in the EFL University Classroom	共	2018年3月29日	TESOL 2018 International Convention アメリカ、シカゴ	リスニングとリーディング用に生の英語（オーセンティック・マテリアル）を使用した授業を受講した大学生の学習者を対象に量的調査を行った。本発表では、その調査の結果を分析して報告を行った。 共同発表者：Christopher Valvona
10.Authentic Materials for Career-readiness	共	2018年3月28日	TESOL 2018 International Convention	就職活動を控えている大学生に対して、社会や企業への関心が高まるような教材を使用して授業を実施した。本発表では、この授業で選定した教材の紹介とその授業の運営方法を紹介した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
of University English Majors			アメリカ、シカゴ	共同発表者：Christopher Valvona
11.Analysis of Skills Required for Senior Students' Future Careers	単	2017年3月24日	TESOL 2017 International Convention アメリカ、シアトル	大学生に将来のキャリアに求められているスキルについての分析を行った。就職活動を行った大学生に量的調査と質的調査を実施し、英語力に加えどのようなスキルが求められているのかを分析し発表を行った。
12.Assessing Employer Expectations of College Graduates: Reflections on the Value of English during the Job-Seeking Process	単	2016年12月2日	The Seventh CLS International Conference ClaSIC 2016 シンガポール国立大学 シンガポール	企業が大学生に求める英語力について理解を深めるため、就職活動を行った学生に半構造インタビューを行った。就職活動生の観点から自分たちに求められている英語力について考察した結果を発表した。
13.An English Syllabus Design to Foster Global-Mindedness	単	2015年3月27日	TESOL 2015 International Convention カナダ、トロント	学習者が国内外の出来事に関心を持ち、グローバルな視点でものごとを考えていく姿勢を養うことを目的に、Nationが提案する外国語活動の4つの分類、Four Strandsを基にデザインしたシラバスの一案を発表した。
14.Syllabus Design for an EFL Course Incorporating Real-world Materials	単	2014年12月4日	The Sixth CLS International Conference ClaSIC 2014 シンガポール国立大学	教材用に加工されていないオーセンティックな英語を使用したEFLの授業のシラバスデザインについて発表を行った。
15.多角的なアプローチによるグローバル人材育成への取り組み	共	2014年8月30日	大学英語教育学会(JACET)第53回国際大会　特別企画グローバル人材育成のための大学英語教育の取り組み	グローバル人材育成のために武庫川女子大学英語文化学科で実施している留学などの様々な取り組みを紹介した。
16.Enhancing Students' Interest in World Incidents through Authentic Materials	単	2014年3月27日	TESOL 2014 International Convention アメリカ、ポートランド	学習者の国内外の出来事への関心を高めるために、時事英語を教材として使用した授業の事例報告である。本発表では、どのような内容を取り上げ、どのように授業で使ったか、そして、その結果として学習者の意識に変化があったのか等フィードバックを報告した。
17.Presentations on Corporate Culture in a University ESP Course	単	2013年3月21日	TESOL 2013 International Convention アメリカ、ダラス	就職活動中の大学4年の学生が企業文化について研究を行い、その内容をプレゼンテーションした授業の報告である。
18.Academic listening : promoting learners' active participation	単	2011年9月2日	JACET Convention 2011 The 50th International Convention 福岡、西南学院大学	受け身になりがちなリスニングの授業を学習者中心、コミュニカティブに授業を試みた事例報告である。レクチャースタイルのリスニング教材をインターラクティブに行ったノートテーキング、サマライズなどの手法を提示した。
19.Effectiveness of the Retention Method, the Method for Training Interpreters	単	2011年4月18日	The 46th RELC (Regional Language Center) International Seminar RELC Southeast Asian Ministers of Education Organization シンガポール	通訳訓練法のひとつであるリテンションを授業に取り入れ、学習者の参加を促した授業の報告を行った。学習者の参加を促すために行った手法と学習者の授業終了後のフィードバックも紹介した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
20.The English Environment Surrounding the Japanese Business Professionals Abroad	単	2010年1月30日	JACET 関東ESP研究会 2010 芝浦工業大学、東京	日本人ビジネスパーソンの職場における英語使用の現状に関する調査の発表である。シンガポール駐在の日本人を対象に国際ビジネスにおける英語使用の現状、必要な英語スキルについて調査した結果を報告した。
21.Curriculums of English Language Education: Approaches of Japanese Schools Overseas	単	2009年11月20日	The 3rd Biennial International Conference on the Teaching & Learning of English in Asia ブルネイ・ダルサラーム国	在外教育施設であるシンガポール日本人学校小学部、中学部で行われている英語教育の現状について報告である。学校訪問を担当教員への聞き取り調査と授業見学を行い、英会話クラスの実施、一部教科のイマージョン教育などの英語教育に取り組んでいる現状について発表した。
22.学習者中心の文法指導―グループワークの試み	共	2009年9月5日	第48回JACET全国大会 北海学園大学、北海道	学習者の授業参加を促すためにグループワークを活用した授業の実践報告である。発表では、授業の運営方法を詳細に紹介し、受講者のフィードバック、教育的効果の検証を行った。
23.リーディング・クラスにおけるライティング指導の実践報告	単	2009年6月20日	JACET九州・沖縄支部第23回研究大会 琉球大学、沖縄	大学の授業において文芸作品を精読し、登場人物について自分なりの解釈をして論じ、最終的にその内容をペーパーに書くという、リーディングからアカデミック・ライティングへ連携した授業の過程を報告した。
24.海外子女の英語教育：シンガポールでの取り組み	単	2009年5月16日	JACET東アジア英語教育研究会第88回 西南学院大学、福岡	シンガポールの邦人の子女の多くが通学する日本人学校の小学部・中学部、早稲田渋谷シンガポール高校での英語教育は、その学習段階に応じて多様な授業を展開している点に特徴がある。それぞれの特徴を現地で英語教育に携わった者としての観点から発表した。特に、担当をした早稲田渋谷シンガポール高校のチュートリアル・プログラムの導入から現状を報告した。
25.Elementary School English: Expectations and Anxieties of Future Teachers	単	2008年12月6日	The 13th English in South-East Asia Conference シンガポール国立教育研究所、シンガポール	教育学部の小学校教育専攻の1年生の学生に、将来英語活動の指導を担当することになった場合、どのような準備が必要になるのか、学生が認識しているかについて調査をしたものを発表した。
26.English Proficiency Tests: Reflections from the Japanese Business Community	単	2008年8月1日	The Asia TEFL International Conference 2008 バリ、インドネシア	従業員の英語力の向上のために、昇進の条件に一定のスコアの取得を求める企業が増えている。このような状況下で、企業での英語能力テストを、そこで働く人たちは、どのように捉えているのかインタビュー調査を行った結果を発表した。
27.The Perceived Value of English Among Japanese Professionals	単	2008年6月28日	The 9th International Conference of the Association of Language Awareness 香港大学、香港	ビジネスの現場での英語の重要性は増し、文部科学省も「英語が使える日本人」の育成を目指している中、実際に英語を使用する環境で業務を行っている日本人は英語の重要性についてどのように考えているのかインタビューを行った。その結果を発表した。
28.The Importance of the English Language in a Cross-cultural Working Environment: Views from English Speakers Who Have Japanese Associates	単	2008年3月4日	The 1st International Language Conference International Islamic University Malaysia マレーシア	グローバルなビジネスでの英語の重要性は増している。日本人とビジネス上関係のある英語話者12人に、ビジネス上の英語について聞き取り調査を行った。英語力が原因で起こる職場でのトラブルやビジネスの機会損失について報告された。
29.Needs Analysis of English for Business Purposes:	単	2007年12月13日	The 12th English in South-East Asia Conference	ニーズ分析を行うため、日本人駐在員に業務で使用する英語について調査した。特に、自分たちが受けてきた日本での英語教育と照らし合わせ、どういうものが役に立っているのか、また、どういうも

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
Focusing on Retrospective Views on English Language Education			King Mongkut’s University of Technology Thonburi バンコク	のが実際の業務で必要なのかということを報告してもらった。学生と社会のニーズに応えるための英語教育について考察を行った。
30.English Language Strengths and Weaknesses of Japanese Expatriate Workers	単	2007年8月17日	Malaysia International Conference on Foreign Languages 2007 University Putra Malaysia、マレーシア	日本人駐在員に、英語力の長所・短所の自己評価をしてもらい、その聞き取り調査を行った結果をまとめ、発表した。
31.Analysis of Writing Structure: Using Japanese Business Correspondence	単	2007年6月7日	The Asia TEFL International Conference 2007 マレーシア	日本人は、最後に結論を持ってくる帰納法の文章を好むと一般的に言われるが、その傾向が本当に日本人の好む文章スタイルなのかを、ビジネスレターを使って分析を行い、発表した。
32.The Usage of English in the Workplace by Japanese Professionals in Singapore	単	2006年8月2日	The Asia TEFL International Conference 2006 西南学院大学、福岡	シンガポール在住日本人駐在員に、職場で使用する日本語と英語の使用量の割合を調査した結果、日系企業での英語使用率が相対的に低いことが判明した。その理由として、企業が日本語能力のある現地の人材や、現地で英語力の高い日本人を雇用して、日本語を使える環境を作り出していることが挙げられる。この調査とその分析した結果を発表した。
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.Needs Analysis of English in Japanese University Students’ Career Development: A Case Study	単	2016年3月	Mukogawa Literary Review No. 53, P. 49-64	研究ノート 大学生の就職活動において、企業が求める英語力についてのニーズ分析のパイロットスタディである。大学生にアンケートと面接を実施し、就職活動のどの段階でどのような英語力が求められたかを調査した。英語力以外に異文化や困難にどのように対応したかなど人間としての力を問われていることを明らかにした。
2.英語はどのように使われているか―シンガポールの事例	単	2014年3月	Newsletters, Department of English Mukogawa Women’s University No.30	他民族が共存するシンガポールでは、英語が公用語のひとつとして採用されている。本報告書では、シンガポールの言語政策、バイリンガル政策、シンガポール・イングリッシュなどについて説明した。そして、そこで働く日本人駐在員がどのように英語を使って仕事をしているのかについての考察をまとめた。
６．研究費の取得状況				
1.持続可能な学びのためのオーセンティック・マテリアルを使用した授業方法の構築	共	2020年4月～2024年3月	日本学術振興会	科学研究費補助金基盤研究(C)　研究代表者
2.オーセンティック・マテリアルの選定方法とそれを利用した効果的な英語教授法の構築	共	2017年4月～2020年３	日本学術振興会	科学研究費補助金基盤研究(C)　研究代表者
3.キャリアディベロップメントにおける英語ニーズ分析とカリキュラム開発	単	2016年8月～2017年3月	武庫川女子大学	武庫川女子大学科学研究費補助金学内奨励金
4.複眼的ビジネス英語のカリキュラムと教	単	2013年7月～2014年3月	武庫川女子大学	武庫川女子大学科学研究費補助費学内奨励金

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
材開発 5.自律した英語学習者を養成するための教員の役割	共	2009年9月～2010年3月	お茶の水女子大学	お茶の水女子大学共同研究用経費

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2013年7月～現在	TESOL International Association 会員
2.2013年4月～2016年3月	TESOL Convention審査員
3.2011年4月～2015年3月	JACET関東ESP紀要編集委員
4.2010年4月～現在	JALT (The Japan Association for Language Teaching) 会員
5.2007年4月～現在	大学英語教育学会(JACET)会員
6.2003年04月～現在	実用英語検定面接委員